

## 令和 7 年度学校評価まとめ

県立西宮甲山高等学校

### 1 昨年度との比較

生徒および保護者の回答率が向上した。生徒に関しては、LHR での一斉実施および設問数の精査による負担軽減によるものと考ええる。保護者は、連絡アプリ「ミマモルメ」を起点としたデジタル回答への移行により、利便性が高まり回答数が大幅に増加した。一方で、教職員の回答数・回答率はともに低下しており、後述する業務多忙化の影響が推察される。

項目	令和 6 年度 (R6)	令和 7 年度 (R7)
生徒回答数 (率)	304 人 (80%)	221 人 (92%)
保護者回答数(率)	41 人 (11%)	63 人 (26%)
教員回答数(率)	36 人 (100%)	22 人 (62%)

### 2 評価について

(1)昨年度と今年度を通じて、以下の項目で高い評価(A 評価:3.1 以上)が維持できている項目

#### ① 生徒の人的成長と居場所:

R7 の項目 15「学校全体を通じて生徒が人的に成長できている」では、生徒・保護者ともに **3.2(A)** と高い満足度を示している。特に R7 の生徒回答(項目 11)では、「先生方は私の話を丁寧に聞き、一人の一人間として尊重してくれている」という問いに **4.0(A)** という極めて高いスコアが出ており、生徒と教員の信頼関係が非常に強いことがわかるとともに、学校の教育目標が共通理解できていると考える。

(2)評価が低い項目、対象者の評価に差のある項目

#### ①学習指導について

R7 の項目 4「生徒の理解度に応じた指導」について、保護者 **3.3(A)** 教員 **3.2(A)** は高く評価しているが、生徒 **2.0(C)** と低い。教員側の熱意が、生徒の「分かった」という実感に結びついていない可能性がある。

#### ②ICT 活用について

R7 の項目 3「ICT 機器の活用」において、教員は **3.2(A)** と手応えを感じているが、生徒は **2.8(B)**、保護者は **2.6(C)** と評価が低い。中学校からタブレットを使用している生徒たちとの温度差、何よりもネットワーク環境の脆弱差が大きな課題であると考ええる。

#### ③「教育総合類型」への評価

R7 の項目 14「特色ある活動の理解」において、生徒・保護者は A~B 評価であるが教員評価が **1.6(D)** と低い。

これは従来より続く担当者一任の傾向が素因であると考ええる。しかしこの低い値は、閉校を控える中で、定員減が行われており、特色ある教育の発展性や体制維持が難しい状況も発生している。多忙や連携不足が原因と考える。

### 3. 今後の改善に向けた取り組み

今年度の地歴公民の訪問指導においても、授業改善・ICTの積極的活用について指導助言があり、教員は他校の授業見学などに参加し、研鑽に努めている。本校の生徒の理解度に応じたきめ細やかな指導体制を作る。

さらに教職員の疲弊を軽減するため、担当者任せの体制を解消することが必要である。そのため前年度踏襲の方法を見直し、閉校まで持続できる教育体制にする。

### 4. まとめ

本校の強みは、教職員による生徒一人ひとりへの丁寧な傾聴姿勢と、それによって育まれる生徒の自己肯定感にある。これは生徒・保護者・教職員が共通して実感している本校の強みである。

しかし、発展的統合(閉校)に伴う教職員の業務過多・組織的疲弊は深刻であり、従来の枠組みでは行事等の維持が困難になりつつある。今後は「教育活動の精選」を行い、教職員の心身の健康を保ちつつ、先生方の資質向上を図りながら、生徒と向き合う時間を確保することを最優先としていく。

### 5. 学校評議員の方より

敷地はどのようになるのか、防犯の面からも心配である。

教育総合類型が引き継がれないことについて、西宮市の幼児教育について不安が残る。

たくさんの思い出があり、一緒に頑張ってきたとの思いがあるので、寂しく思う。

最後まで協力させていただく。